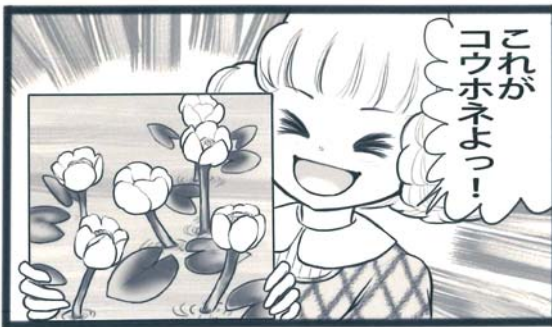


## 第58回 コウホネ

カコちゃん かほくがたチルドレン

ヒロ



ミガメの食害に遭っているのだと思われます。一度、消滅した植物をもとに戻すのは簡単ではないようです。また管理できる範囲外に逸出してしまうことも注意が必要なので、今のところは状況を見ながら対応を考えているところです。

河北潟周辺の1か所の水路に、コウホネの近縁のヒメコウホネの仲間が生育していました。石川県レッドデータブック2020によると、石川県に分布するのはサイコクヒメコウホネとのことで、この水路の株もおそらく同種であると思われます。主に山地に分布するようで、なぜ河北潟周辺に生育しているのかが不思議でしたが、聞き取りを進めていくと、この水路に面した田んぼの持ち主が山から持ってきて植えたとのことでした。いつの間にかこの水路から姿を消してしまいました。(文：高橋 久)

葉の濃緑と花の黄色の鮮やかなコントラストが美しい水草です。コウホネが「河骨」と書くことを知ったときには、ちょっとドッキリしました。太くて白い根茎が泥中に横たわり、それが骨のように見えるというのが名の由来とのこと、そのように見たことはなかったので、とても違和感を持ったことを覚えています。根茎は川骨(せんこつ)の名で漢方薬として強壯剤や止血剤として利用されるそうです。

水生植物のタイプとしては抽水植物で、水底から葉柄と花柄を水上に伸ばします。池にも水路にも見られますが、比較的浅い水辺に分布しています。河北潟にもかつては自生していたようですが、現在では、自然状態のコウホネを見つけることができていません。国営干拓事業後も西部承水路には自生していたということが、数名からの聞き取り調査で分かっています。西荒屋小学校の校庭の池に植えられているコウホネが、西部承水路から採取されたものであるということも聞きました。ただし、本当に西部承水路由来のものなのかは証明できませんでした。

数年前に、森の都愛鳥会の本間勝美さんからご連絡をいただき、自宅のビオトープに西部承水路から採取したコウホネが残っていることを聞き、その一部を分けいただきました。話の内容から、西部承水路由来の株であることが明らかでしたので、この株を西部承水路に造成した緩傾斜護岸の植生定着実験に使ってみることにしました。

2年前から実験を始めていますが、網で囲った水域の中では順調に生長しますが、網の外に出すとすぐに何かに食われてしまうことが分かりました。おそらくアカミ